

令和8年9月定例会 一般質問通告一覧

発言順	通 告 者	質問事項（質問要旨は別紙）	質 問 の 相 手
9/29 日 1 番	山 下 真 男	1 第3次総合計画について 2 今後10年間の観光戦略について	町 長 町 長
9/29 日 2 番	中 原 緑	千頭駅周辺の振興について	町 長
9/29 日 3 番	爾 見 淳 芳	1 ガバナンスについて 2 米寿の贈呈品について	町 長 町 長
9/29 日 4 番	佐々木直也	1 「歳入確保戦略委員会」の機能強化と外部専門 人材の活用について 2 第3次総合計画における「町民協働の推進」と 「未来像・教育方針の翻訳・普及手法」について	町 長 町 長 教育長
9/29 日 5 番	石 関 華	1 地域の伝統文化を次世代へ繋ぐための仕組み づくりについて	町 長

※議員の質問の制限時間は、1回につき30分以内（質問時間のみ）とし、
再質問以降は一問一答方式とする。

9月29日
発言順1番

質問者	質問事項	質問要旨	質問の相手
山下 真男	1 第3次総合計画について	来年度から実行に移される第三次総合計画は現在策定中であり、様々検討されていると思うが、物価高やAI化、世界の紛争等混沌としている世情の中で、当町の人口減少はこの先も続いていくと思われ、どのような町の将来像を描いて今どのような手を打っていくか、来年度からの10年間は当町にとっても最重要な期間ととらえるべきと考えます。そこで総合計画を深掘りする為にも何点が質問をいたします。 (1) 年代別の人口構成からしても今後も暫くは人口減少は続いていが定住移住を年間何世帯増やしていくことで何年後くらいに人口減少は止まると考えるか。 (2) 川根留學生が当町に残る為に、また若者が移住してくる為に働く場所が必要になってくるが雇用の創出の為にどのような施策を考えているか。 (3) 自治会や区組織は地域自治や防災面からも大切な存在であるが、人口減少、高齢化の中でやり手が少なくその存続が厳しくなっている。区組織の将来像をどのように考え、この先どのように行政と連携していくことが望ましいと考えるか。 (4) 第3次総合計画に数値目標を入れる考えはないか。	町 長
	2 今後10年間の観光戦略について	第3次総合計画に関連して今後の当町の将来を考えるうえで観光分野は大きな役割を果たすと思われる。2029年の大井川鐵道の全線復旧に合わせて人の流れをどう作り、宿泊や周遊性を創出して町の収益にどう結びつけていけるか。様々な施策を打っていくことが現在求められている。 (1) 大井川鐵道の全線復旧に合わせた観光需要の振興をどのように考え、どのような具体的な施策を打っていくか。 (2) その回答に含まれるかもしれないが観光客にお金をおとしてもらう為のこれまで課題であった宿泊と周遊性を具体的にどう作っていくか。 (3) 運賃の値上げで井川線に乗る観光客は減っているが接岨地域や湖上駅については今後どのようなプランを考えているか。 (4) 包括協定を結んだ(株)電翔との星空関係のビジネスについて、当町の雇用や収益にどのように結びつけていくか。	町 長

9月29日

発言順2番

質問者	質問事項	質問要旨	質問の相手
中原 緑	千頭駅周辺振興について	1 大井川鐵道の全線復旧により、S Lの汽笛が再び千頭駅に響く日まで、残すところ約2年半となった。千頭駅周辺は川根本町の観光の拠点と考えるが、その認識で良いか。またその根拠を町の総合計画などからお示しいただきたい。 2 町は「大井川鐵道全線復旧・復興に向けたまちづくり意見交換会」を発足させ、検討を進めていると承知している。意見交換会の構成委員の紹介、これまでの議論で見えてきた課題について、その検討状況、そして復興に向けたまちづくりのテーマは何か伺う。 3 音戲の郷がいよいよ売却へと踏み出した。千頭に来たお客様のために30年余り町のシンボルを担ってきた施設であり、大井川鐵道の全線復旧と合わせ、新たな出発への期待は大きい。観光戦略において、町は「新・音戲の郷」をどのように位置づける考えか伺う。 4 一方、駅前広場においては、ブナの木が枯れて石製サークルだけが残し、イベント時には来訪者の動線の妨げとなっているほか、駅前トイレの再建、バス停・ロータリーの再配置など、個別の課題が残されている。これらを一時的に対処するのではなく、観光客の回遊性の向上を考え、「新・音戲の郷」へのアプローチも含めた駅前広場全体のレイアウト、すなわち「グランドデザイン」を全線再開までに策定すべきと考える。策定に当たっては、町内外からデザインを公募し、コンペティションによって「みんなの駅前をみんなでつくる」ことで、千頭の知名度・ブランド力の向上にもつながる。町にグランドデザイン策定に取り組む考えはないか。あわせて、策定の時期と財源確保の方針を伺う。まさに「時は今」である。	町 長

9月29日

発言順3番

質問者	質問事項	質問要旨	質問の相手
爾見 淳芳	1 ガバナンスについて	川根本町の町政運営において政策、意思決定、チェック、説明責任が実際に機能しているのかガバナンスを伺う (1) 町民の意見の集約について、また説明責任について (2) 課長が町長に進言、政策提言が予算等に反映されるのにどのような過程、検討があるのか (3) 議会から出された意見、提言、指摘が町政の意思決定にどう反映され、その結果議会にどうフィードバックされているか	町 長
	2 米寿の贈呈品について	長年にわたり地域社会の発展に寄与し、家族を支えて来られた高齢者、特に米寿を迎えられ町民へのお祝い品について伺う (1) 現在の贈呈品について品物の内容、選定の方法について (2) 公費で購入する記念品の公平性、透明性、町民からの信頼について	町 長

9月29日
発言順4番

質問者	質問事項	質問要旨	質問の相手
佐々木直也	1 「歳入確保戦略委員会」の機能強化と外部専門人材の活用について	副町長をトップとする「歳入確保戦略委員会」が立ち上がり、町が自ら「稼ぐ力」をつけるための作戦会議が始まっている。 この委員会を、確実に利益を町にもたらす強力な『稼ぐエンジン』とするためには、行政事務のプロである既存の職員に加え、マーケティング等に長けた外部の「攻めのプロ・事業開発のプロ」の知見を掛け合わせるチーム作りが必要不可欠と考える。 1 行政の枠を超えた稼ぐ戦略の実行に向けた、外部専門人材とのチーム構築の必要性について、町長の認識を伺う。 2 実質的な財政負担を極小化できる国の「特別交付税措置」等を活用し、「地域力創造アドバイザー」「地域プロジェクトマネージャー」などのマネジメント層と、「地域活性化起業人」「地域おこし協力隊」などの実働層をパッケージとして戦略的に登用し、次年度からの本格稼働に向けて今年度のうちからスカウト等の準備に動く考えはあるか伺う。 3 外部人材のノウハウを一時的なものに終わらせず町職員が学び取り、中長期的に川根本町が「自分たちの力で自走して稼げる組織」へと進化していくための人材育成ビジョンについて伺う。	町長 町長 町長
	2 第3次総合計画における「町民協働の推進」と「未来像・教育方針の翻訳・普及手法」について	策定中の「第3次川根本町総合計画」を、町民一人ひとりが「自分ごと」として関わる計画とするためには、文字の並ぶ冊子にとどめず、行政用語から誰もが直感的に理解できるビジュアルや物語へ“翻訳”し、普及させることが不可欠である。 1 計画の理念を幅広い世代の町民に浸透させるため、分かりやすいビジュアルや物語へ“翻訳”する必要性について、町長の所見を伺う。 2 計画の普及に向け、町の未来像を描く「絵本」や「住民参加型PV（プロモーションビデオ）」の制作など、視覚的・感性的に町民を巻き込む広報・普及手法を次期基本計画および実施計画に位置づけて推進する考えはあるか伺う。 3 本町の強みである「0歳～18歳までのシームレスな共育」の理念を絵本やPV等のコンテンツとして制作し、町内での理念共有および移住促進に向けて強力に発信・PRしていく考えはあるか伺う。	町長 町長 町長 教育長

9月29日

発言順5番

質問者	質問事項	質問要旨	質問の相手
石関 華	1 地域の伝統文化を次世代へ繋ぐための仕組みづくりについて	川根本町には現在も多くの神社仏閣があり、季節ごとの祭事や伝統行事は、各地区の氏子総代をはじめとする地域住民の協力により、今日まで守り受け継がれてきた。また、これらの行事は地域の歴史や文化の継承だけでなく、住民同士の交流や地域コミュニティの維持にも重要な役割を果たしている。 一方、人口減少や高齢化により、行事を担う人手の不足や役員等の負担増加が生じ、従来の地域体制を維持することが難しくなっている。今後も伝統行事と地域コミュニティを次世代へつないでいくためには、現在の人口規模や地域構造に合わせた継承のあり方を地域だけでなく行政とともに考え、持続可能な仕組みを整えていく必要があると考え、以下の質問を伺う。 1 町内の伝統行事について、担い手不足や開催状況、運営にかかる経費、関係者の高齢化などの現状と課題を、町はどのように把握しているか伺う。 2 町として、地域の伝統行事や地域コミュニティを維持するための構想はあるか伺う。 3 今後も地域主体を尊重しながらも、行政が地域同士をつなぎ、将来の在り方を考える場を設ける必要があるのではないか、考えを伺う。	町 長